



(1) 青葉山新キャンパス

仙台市地下鉄東西線青葉山駅に近く、理学研究科や工学研究科などが設置されている青葉山キャンパスに隣接。農学研究科、災害科学国際研究所といった教育・研究施設のほか、留学生と日本人の752名が混住するユニバーシティ・ハウス青葉山、保育所、図書館等が整備された一つの「まち」として機能している。

その中に、産学官が結集し、大学とともに社会価値創造を行う「サイエンスパーク」の整備が本格的に進んでいる。サイエンスパークは、研究開発から事業経営、制度設計まで一貫し遂行していくオープンイノベーションのためのエコシステムである。

(2) サイエンス・アンバサダー (SA)

主に自然科学系研究科に属する女子大学院生有志が行うプログラムで、中高生を対象とした出張セミナーやオープンキャンパスでのセミナー、小学生以下の子どもを対象とした科学イベントなどを実施。身近なロールモデルとして、次世代の女子学生の理系進路選択に貢献することを目的としている。また、これらの活動などを通じて、SA自らも女性研究者としての意識醸成を行うことが期待される。

最先端研究を展開する次世代放射光施設 NanoTerasu (ナノテラス)



用して、東北大学が特に強みを持つ材料科学、スピントロニクス、未来型医療、災害科学の4領域(コアリサーチクラスター)で自主財源を投入し、ワシントン大学やUC、ケンブリッジ大学など海外有力機関の研究者と国際共同研究を展開しています。さらに研究施設・機器の共用促進と研究設備を運営する技術専門人材の育成を一体的に実施する「コアファシリテイ統括センター」を設置しました。国内外のあらゆる研究者が東北大学の最先端設備にアクセス可能な環境を整備しています。また、今年1月には世界トップレベル研究拠点プログラム(WPI)として、「変動海洋エコシステム高次研究所」が設置されました。さらに、若手研究者が躍進する大学であることを目指す「東北大学若手躍進イニシアティブ」を掲げ、若手研究者海外長期派遣支援や分野融合促進支援、教育支援としての国際共同大学院プログラムなど学生から若手研究者までシームレスな支援を行っています。

その躍進ぶりをデータで見ると、博士後期課程を対象とした「科学技術イノベーション創出に向けた大学フェローシップ創設事業」で採択120件と全国1位、「文部科学大臣表彰若手科学者賞」85名(全国2位、40歳未満の研究者、平成28〜令和6年度)、「令和5年度日本学術振興会賞」9名(全国2位、45歳未満の研究者)、「令和5年度日本学術振興会育志賞」5名(全国2位、34歳未満の大学院博士課程)など若手研究者が「破壊的イノベーション創出」に果敢に挑戦し躍進する姿が浮き彫りにされています。

「新たな社会価値の共創」へ青葉山新キャンパスの整備
「実学尊重」の根底にあるのは、社会に役立ち、社会や生活に広く貢献できる大学としての存在を目指すということです。このため、東北大学では「社会との共創」をテーマに地域社会の人々と共にさまざまな取り組みを開始させています。その一つが共創型創業への挑戦です。医薬品をはじめとするヘルスケアの基礎研究・臨床開発から製品化・事業化まで東北大学でしか成し得ない一気通貫の事業の展開を目指しています。また、SDGsに対応する新概念のナノ材料プロジェクト、素材の生産革新による循環産業創設プロジェクトなどの新たな試みも始まりました。そして、青葉山新キャンパスには、産学官金が結集し社会価値創造を行う共創の場「サイエンスパーク」の整備が急ピッチで進んでいます。今年4月には、サイエンスパークの一端にナノスケールの世界を見ることができる巨大顕微鏡、3GeV高輝度放射光施設(NanoTerasu(ナノテラス))の運用が開始されました。官民地域パートナーシップによるもので、わが国のものづくりを進めるために重要な研究基盤施設です。



とみながていし 富永悌二総長
1982年東北大学医学部医学科卒業。87年米国フィラデルフィア生体膜研究所留学。2000年広南病院脳神経外科部長。03〜23年東北大学大学院医学系研究科神経・感覚器病態学講座神経外科学分野教授。19年〜23年東北大学病院長、新型コロナウイルス感染症対策に尽力。23年東北大学理事・副学長を経て、24年より現職。

日本で3番目の帝国大学として1907(明治40)年に誕生した東北大学は、「研究第一」「門戸開放」「実学尊重」を建学の理念として、世界水準の研究と教育を展開してきました。2024年6月には、文部科学省の有識者会議により、世界トップレベルの研究力を目指す「国際卓越研究大学」としての認定水準を満たし得るものとの評価を受け、いよいよ認定第一号の大学としての歩みをスタートさせつつあります。

東北大学は、また国立大学として初めて女子大生が誕生した大学としても知られ、あらゆるダイバーシティの実現に取り組んでおり、女性や若手研究者にさまざまな活躍の場を提供しています。こうして勉学の環境に恵まれた仙台の地で、「挑戦する東北大学」を掲げて、グローバル人材の育成に力を注いでいます。

東北大学

〒980-8576 宮城県仙台市青葉区川内28 入試課 TEL 022-795-4802 <https://www.tohoku.ac.jp/japanese/>

初の「国際卓越研究大学」に認定へ 女性や若手研究者の活躍の場を広げ 世界最高水準の研究と教育を加速

初の「国際卓越研究大学」へ世界最高水準の研究力が認定

東北大学は、建学以来の伝統である「研究第一」を礎に、独創的な研究成果を生み出しながら、その成果を学生に対する教育にも活かすという理念を高く掲げ、世界最高水準の研究・教育を創造してきました。世界トップレベルの研究水準を目指して国が新たに支援を行う「国際卓越研究大学」について文部科学省は、「初の認定候補としていた東北大学が、今年6月の有識者会議(アドバイザリーボード)による検討の結果、認定の水準を満たし得るもの」と発表されました。今年10月以降に正式に認定され、今年度中におよそ100億円の助成が開始される見込みです。

東北大学の計画では、3つのコミットメント「未来を変革する社会価値の創造」「多彩な才能を開花させ未来を拓く」「変革と挑戦を加速させるガバナンス」の下、6つの目標の達成を掲げています。富永悌二総長は、「社会の負託に

応え日本を牽引する研究大学として、最終的な認定に向け、全学一丸となって取り組みます。すべての人たちの『共感』を大切に組織運営に当たりたいと思います。研究環境を整え、若い人に大いに活躍してもらい、挑戦する東北大学を先導したい」と話します。

THE「日本大学ランキング」で4年連続総合1位を獲得

東北大学では、教育に焦点を置いたTHE「日本大学ランキング」2023年度版で4年連続総合1位を獲得。教育・研究・社会連携の好循環に基づく「創造と変革」の姿勢や、学生の挑戦する心を育て、未来を担う人材を世界に送り出す大学として評価されました。

学部ごとの教育目的に応じ、入学時から段階的に全学教育科目と専門教育科目の授業を実施しています。卓越した学術研究に基づく共通の教育資源である全学教育科目では、現代的リベラルアーツを含む文理・分野横断型科目を初年次から高年次まで広く開設しています。また、教育プログラムとして「挑戦カレッジ」を導入、グローバルリーダー育成プログラムや、SDGsプログラムなど5つのテーマで実施しています。さらに、学びの場は世界に広がっています。交換留学をはじめ、夏休み・春休み中に実施する短期留学プログラム「SAP」、研究を主目的とした「COLLABS」、ダブル



女性や若手研究者の活躍が広がっている

多くの若手研究者が躍進 世界水準の研究を推進
東北大学は、冒頭でも触れた国際卓越研究大学としての歩みを始めつつあるように、わが国屈指の研究大学として世界水準の研究を展開しています。クロスアポイント制度を活用